

楽 紙 舎

一般社団法人日本販売士協会 登録講師 米林 一郎（兵庫県）

八王子市は、東京都の西部に位置し、都内の市町村では第1位の人口。多摩地域最大の都市である。大学や短大も23校あり、約11万人の学生が学ぶ全国有数の学園地域ともなっている。

「八王子」という地名は古い信仰からの伝説と八王子城築城という歴史的背景から根付いたそうである。今回お伺いした「楽紙舎」は、西八王子駅から徒歩で約5分という中心地にあり、市役所へ行き来する人の往来が途切れない場所に立地している。

■和紙を使った楽しさを提供

店主の市川淳子氏は、前職が百貨店勤務。退職を機に一念発起し、経験を活かした「ラッピング（包装）ノウハウの伝授」と長年自身で勉強してきた「紙の人形作り」が同時に提供できる店として2011年、「楽紙舎」を開業した。もちろん、和紙そのものの販売している。

店名の由来は、「紙」を使って「楽」しむ「場所」ということで、事業範囲も紙にまつわるものなら増やしていきたいとの意欲を持っているそうだ。開業当初から、店舗まわりの住宅へのポスティングや地域紙への情報掲載なども熱心に行い、多くのお客様から支持を集めている。

筆者が訪問時には、店舗のショーウィンドーには、「母の日用ラッピング承ります」という告知がされており、常に心地よい季節感の演出を心がけているという。

販売士検定については、百貨店時代に人事制度の一環として、3級そして2級と社内昇進に向けた取り組みとして取得したそうだが、現在でも経営やマーケティング知識を仕事にも活かしているそうだ。詳しく伺うと「この販売士制度はお客様への安心の証明です!」と力強い一言をいただいた。

■店になれば自ら出向いて調達

色柄の美しい和紙を取りそろえ、お客様ニーズに対応されているが、在庫していないものを要望されるケースもある。そのような場合は、店の休日に自ら卸店へと出向いて手配するとのこと。「届けられないケースもあるんです」と、心から悔しそうに話す姿に、すべてがお客様視点なのだと感じた。遠くは三重県からお客様が来られることもあり、全国的にも珍しい「紙の専門ショップ」として認知度が高まっている。

「最近ではネット社会で子供向けのギフトも包装がされないケースがあり、それが寂しい」と市川氏。ワクワクしながら包装を解くあの気持ちをもう一度普及させたいとの思いで、小学校などでの包装教室を出前形式で実施している。取材日も店内で紙人形教室が開催されていたが、そのお客様に話を伺うと「私はもう2年通っています。楽しくなければ1回限りで来ません」と笑顔で話した。

お客様とのつながりも「和紙のように強い」。

本号にて「販売士のいる優良店」の連載は終了となります。長期間ありがとうございました。



「楽紙舎」店舗外観



店主市川淳子氏(左)と紙人形教室に通うお客様